

# 感性インテリジェンスとMODによるソーシャルマーケティング-その3- ーソーシャルマーケティング視点から見たデザインの現状ー

## Current State of Design seen from Social Marketing Aspect

(キーワード : MOD, Social Marketing, Universal Design )

○和田精二 (湘南工科大学)

### 1. はじめに

公共空間内の水域活用を目的として始めた「ユニバーサルカヌー研究」も6年を経過すると、ソーシャルマーケティング視点から興味深い現象が見えてくる。今後、増加するであろう公共空間におけるデザイン活動にとって、最も大事なことは何かという問題について考察してみる。

### 2. 「ユニバーサルカヌー」という名のデザイン運動

昨年の神奈川県立辻堂海浜公園における当該研究では、宣伝なしで3ヶ月間に15艇のオリジナルカヌーに約4,000人が乗艇した。ハードモデルの開発に加え、乗艇料をサポートの交通費・昼食費に回すことでサポートの長期的な安定確保を図ることなどを盛り込んだモデルの構築を目標としている。この運動がきっかけとなり今春藤沢市カヌー協会が設立され、会員によるパドル操作指導が可能となった。次年度から、全長270mの流水プールを活用することで、現在使用している小池を障害児や高齢者、幼児のための空間として分離する計画が浮上した。これまでの実験で収益面の仮説はたったものの、限られた乗艇者数に対する客の不満や、将来的なサポートの安定確保、上達した体験者に対する上級プログラムの提供等が問題になってきた。そこで県公園協会と相談し、流水プールの活用が事業計画として検討されることになった。その場合、①サポートの確保、②施設面の安全や保険等の充実、③積極的なPR、④必要な艇の確保、⑤サービス面の配慮等が新たな課題となる。以上を保証できれば、年間4,000人の乗艇者数を10,000人以上にすることも夢ではない。小池におけるひとり20分100円を流水プールでは平均5分100円とすることが可能となり、サポートフィーの増額、艇の増産、将来的には金型改良にいたる課題が解決する。現在、事業主体を大学からデザイン社団法人に移行しつつあるが、本運動の目標である経営的自立が公益社団法人を目指すデザイナー団体にとって達成可能かどうか、MOD視点からも最大の興味となる。デザイナーに「コトのビジネス」が可能かどうか、というテーマである。

本プロジェクトに於いては、参加者の誰もが得をするWIN-WIN関係を目指してきた。ユーザー、大学、県公園協会、藤沢市カヌー協会、産学連携先企業、一般サポート、デザイン社団法人の誰もが何らかの利益を得ることを目標に運営してきたが、ハードに関わる研究費約1,700万円

は大学に、カヌー環境の提供と水交換は県公園協会に負担願ってきた。これまで新聞に掲載された関連記事の広告換算値の算出を広告代理店に依頼した結果、22回1,356万円(H20.8)であったから大学の投資に対する回収に多少は役立ったと言える。当該運動は、現在は受益者負担(乗艇料徴収)と自主事業主義(事業主体が自ら稼ぐ=公的補助金に依存しない)を貫いてきたが、これだけ社会環境が変化する時代にあつては、主義主張も変化する可能性がある。最も大事なことは顧客志向であつてそれ以外については、「やって見なければ分からない」というのが現時点における結論である。市販カヌーと同じ材料・製造方法で20艇以上も工場生産した例は日本では稀有であるが、障害児に対応した推進補助装置の搭載が容易であることから、現場に於ける期待も高く、デザイナーの資質を活かしながら結果を出していくプロセス自身に大きな関心をもっている。

### 3. 今後の展望

地域貢献を目指すデザイン運動であるが、地域における知名度の向上、県公園協会が向こう5年間の指定管理者に選定された理由の中に当該運動が謳われていること、70人に迫った障害児の会(一般児童と時間・空間を共有しながら別途運営)の期待を考えれば中止という選択肢は存在しない。障害児に支援されたモニターや試験的運営の期間を含めて6年を数えたが、なぜここまで発展できたかを考えると、関係者相互の「信頼感」が最大の要素としてあげられる。最近、社会学を中心に、人間同士の信頼関係を社会資本と捉える見方が広がっているというが、江戸時代の石田梅岩等の商人道精神や近江商人の「三方よし」(売り手よし・買い手よし・世間よし)としてきた社会資本を現代のWIN-WIN関係として蘇えらせたいと思う。短期的な利益、目先の利潤の最大化を最適戦略とするグローバル資本主義が破綻したが、市場原理をモットーとするグローバル資本には社会的価値を無視し、社会の安心・安全を喪失させ、安心や安らぎを奪っていく本質的な欠陥がある。デザイナーはもともとモノに意味を与え、生活に秩序を与えることで、「三方よし」を実現してきた職能である。当該運動を通してデザイナーの資質で次なる時代を発想していくことに大きな意味があると考えられる。